



2021 年 2 月 2020-2021 第 4 号

ワイズメンズクラブ国際協会 アジア太平洋地域ブリテン

主題:変化をもたらそう スローガン:奮い立たせよう



京都 YMCA サバエキャンプ場夏期開設ワーク(P4 参照)



上:2020-2021 年度 西日本区役員会メンバー(P7-8 参照)

下:和歌山 YMCA クリーンキャンペーン(P5 参照)



目次

地域会長からのメッセージ 2

西日本区特集 3-9

STEP 10

TOF 10-13

グリーン活動と環境 14

地域会長からのメッセージ

アジア太平洋地域会長 デビッド・ルア



アジア太平洋地域のワイズメン、ワイズメネットの皆さん、こんにちは。

アジア太平洋地域は、多くの国(現在は 15 カ国)を含む地域であり、様々な民族や言語を持つ国際色豊かな地域でもあります。私たちは、様々な民族のお祝いを楽しむことができる特権を持っています。

例えば、シンガポールでは、グレゴリオ暦の 1 月 1 日の正月、2 月 12 日に行われる旧正月、イスラム正月、インド正月の 4 つの主要民族を代表する 4 つの正月を祝います。

異なる民族や文化間の理解と平和を促進するためには、主なお祭りを同胞や友人と一緒に祝うこと以上に良い方法はありません。

中国本土、香港、マカオ、台湾、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピンなどの多くの友人が旧正月を迎えます。この場をお借りして、旧暦の新年、健康と愛、平和、喜び、繁栄の祝福をお祈りします。

恭賀社友们 牛年吉祥 富贵安康 阖家欢乐 主恩满满

米国 FDA が新型コロナウイルス対策ワクチンを承認したことを受けて、誰もが国際旅行や世界経済の復活を熱望しています。2020 年の荒涼とした暗い過去を後にして、2021 年に突入する多くの人々に希望の光を照らしています。グループでの物理的な集まりが緩和されるまでは、クラブはバーチャルな会合やソーシャルメディアを通じて会員との関わりを続け、恵まれない人々に地域社会のサービスを提供するための新しい方法を再考する必要があります。

ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)の使命である「世界をより良い場所にする」を達成するために、協力している地元の YMCA が主催するインパクトのあるプロジェクトを通じて、YMI は 1972 年にタイム・オブ・ファストを採用し、会員や希望者がこの国際基金への寄付の一端を担うことができました。これまでに承認されたアジア太平洋地域内の TOF プロジェクトの中には、フィリピンの「YMCA リザール青少年リーダーシップ研修所の支援」、タイの「笑顔と愛とケアのための障がい者青少年リーダーシップ強化」、カンボジアの「ユースのためのユースのエンパワーメント」などがあります。

地域ブリテンの目的の一つは、情報を共有することで区間の距離を縮め、地域内の会員の強いアイデンティティを築くことです。2020 年 11 月号で取り上げたオーストラリア区と、2020 年 12 月号で取り上げた東日本区について、皆さんの理解が深まったのではないのでしょうか。今月は、西日本地域に焦点を当てています。古田裕和理事をはじめ、西日本区のリーダーの皆さんには、貴重なご寄稿をいただきましたことに感謝いたします。同区では、EMC の推進に向けた活動が活発に行われており、私たちが学べるがたくさんあります。

ASD のコリン・ランビーのリーダーシップの下、エリアブリテンチームは、本号の発行においても素晴らしい仕事をしています。彼らと寄稿者である ASD のジェームズ・congとパトリシア・リムのおかげで、本号もまた興味深いものとなりました。どうぞ楽しんでお読みください。

心からの敬意を込めて



西日本区の現況

西日本区理事 古田裕和



1977 年7月1日に日本区を東西に発展的分割をすることで西日本区はスタートしました。西日本区は現在、9部、80クラブ、1,411 名(2020.7.1 現在)で構成されています。

西日本区のメンバー数は、増減を繰り返していましたが、ここ数年は、減少傾向にあります。ワイズメンズクラブ国際協会創設 100 周年、東西両区設立 25 周年である 2022 年に向けてワイズ将来構想特別委員

部	クラブ数	メンバー数
中部	7	89
びわこ部	7	105
京都部	18	513
阪和部	7	103
中西部	7	105
六甲部	8	132
瀬戸山陰部	4	47
西中国部	5	65
九州部	17	252
合計	80	1,411

西日本区各部の現状(2020.7.1 現在)

会を発足させることになりました。

2022 年に向けて西日本区のメンバー数、そしてクラブ

の質も併せて大きく向上させるために、そして 2022 年にはメン

バー数 2,022 名を目標に西日本区全メンバーと共に新生ワイズ起こし運動として活動を行っています。(ワイズ将来構想特別委員会からの報告は、7-8 ページに記載されています)

また、最近、西日本区では、今までにない様々な方法を用いてメンバー増強を考えるクラブが出てきたことに注目し、大きな関心が寄せられています。

京都トップスクラブでは定期的に経営塾を開催し、仕事に生かしていくと同時に人脈作りやクラブのメンバー候補を増やすことに役立つ仕組みを作っています。その流れで大阪茨木クラブの若手メンバーが「関西ワイズビジネス交流会」を作り、仕事の面でもクラブ運営の面にも役立たせようと動き始めました。(関西ワイズビジネス交流会の報告記事も 8-9 ページに記載されています)

これら一連の西日本区を質量共に強化するという動きを側面から支えるために広報活動の改革にも取り組んでいます。各クラブや部のウェブサイトについては、速いペースで更新を行う、SNS など新しいツールを使った広報活動を研究し、実践していく等を各クラブに奨励しています。また、各クラブや部の活動をできるだけマスメディアに取り上げてもらうことについても力を入れています。今期も 10 クラブ以上で新聞などに事業が取り上げられています。

現在、猛威をふるっている新型コロナウイルスですが、西日本区では新型コロナウイルス対策特別委員会を新たに設置し、各クラブの中で新型コロナウイルスの影響でクラブを退会することや休会することがやむを得ない状況にあるメンバーがいるクラブに対して支援を行ったり、オンラインでの会議を行うのに必要な経費を補填したりという活動を行い、新型コロナウイルスによる退会者を極力減らしていくための体制をつくりました。

また、西日本区費の前期分を全面免除とし、その費用を各クラブの活性化のための資金として使ってもらえるような支援を行いました。

ワイズメンズクラブ国際協会創設 100 周年の記念事業のひとつとして考えられていた「東西日本区交流会」がいよいよ実現に向けてスタートいたしました。先般、実行委員会が開催され、時期的には 2023 年の 1 月ないし 2 月に行う。今回は、西日本区が主導して企画運営を行う、などが決定され、今後、100 周年にふさわしく、東西両区が発展していくためにも、100 周年が経過したあとその後より発展していくためにも素晴らしい内容をみんなで考え実現していこうと思います。

100 周年を盛大に、そしてその後は 100 周年をきっかけに次の目標に向かって大きく西日本区は、羽ばたいていきます。

各部からの報告

中部

ワイズメンズクラブクラブ 中部の各クラブは、新型コロナウイルスの影響で各クラブが奉仕をしている事業が出来ない状況です。部長としての計画が何一つ出来てはいない半年が過ぎ、残りの半年をどの様にするのかを改めて計画を作り直し、前進するつもりです。

早川政人中部部長

びわこ部

今年度、びわこ部の行事として、大きな事業は中止が相次いでいます。メンバーが集まるのが中々困難なため、例会も回数を減らす、または中止に追い込まれています。こういう時期ではありますが、EMC に力を入れたいという私の目標に対し、ワイズ起こし運動のリーダーである、松岡ワイズを中心に、2月20日土曜日に EMC シンポジウムを開催するため、コロナ禍の中、準備をしていただいています。また、各クラブが予定しておられました後期の行事予定を何とか遂行できるようにびわこ部としても応援したいと思っております。

西川祐介 びわこ部部長

京都部

ワイズメンの皆様こんにちは！

新型コロナウイルスの影響でお亡くなりになられた方や、被害を受けていらっしゃる方々にお見舞い申し上げますとともに、最前線で活躍されている医療従事者等の皆さまに感謝申し上げます。

さて、今期も半年が過ぎ、早くも上半期が終わってしまいました。コロナ禍の中での年度のスタートであり、事業等への影響が予測出来ましたので、事前に、主だった活動の中止や自粛を発表していましたが、そんな中でも Y サ・ユース事業に関しては、YMCA の事業のサポートを主として、感染に注意しながらも大体の活動が出来たと思います。地域奉仕・環境事業に関しても、例年開催しているワイズデーのイベントは、中



止となりましたが、各クラブがアイデアを出しながら独自に行っている児童養護施設や障がい者施設、サポート犬など動物に関わる施設等のサポートや学童野球大会、清掃活動等は、積極的に行われました。また、EMC 事業に関しては、このような社会情勢にも関わらず各クラブが積極的に新入会メンバーを獲得し、純増 13 名と言う結果を残すことができました。コロナの影響から国際・交流、メネット、PR 活動に関する事業は、中々活動が難しい状況でしたが、制約の中に合っても、出来る限りの取り組みが行われました。下半期こそはと思っていた矢先に、先日、京都では 2 回目の緊急事態宣言が発せられました。この先どうなることか不安に思っています

中村隆司 京都部部長



京都 YMCA サバエキャンプ場夏期開設ワーク

阪和部

阪和部よりみかん、梅干し、高野山等で有名な和歌山県から素敵な報告をお届け致します。国際会長提唱の「YMI ワールドクリーンアッププロジェクト」キャンペーンを受けて和歌山 YMCA、和歌山クラブ、紀の川クラブ共催で地域貢献・交流を目的として「和歌山 YMCA クリーンキャンペーン」を11月12日(木)、約1時間実施しました。範囲は、JR 和歌山駅から YMCA 会館の周辺です。参加者は、約50名で和歌山 YMCA の子供たち、生徒、ユースボランティアリーダー、スタッフ、ワイズメン等、子供から大人迄が集いました。短い時間でしたが集中して担当エリアをきれいにすることが出来ました。初めてお会いする方々と同じ思いでの協同作業は、楽しく充実感を与えてくれました。ベストも28着購入致しました。これを着て来年も春、秋の年2回程度を実施する予定です。



和歌山 YMCA クリーンキャンペーン

中井信一 阪和部部長

中西部

2020年12月19日に開催された、中西部・大阪センテニアルクラブの12月例会は、コロナ禍により各所でのクリスマス祝会が中止される中で、素晴らしいIBCの例会となりました。土佐堀 YMCA10階のチャペルには、クラブメンバーの他、芝田光雄メン率いる Backwoods Mountaineers バンドの4名、石田由美子ウイメン率いる Y's Hula の4名が花を添え、制限人数内の約25名、Zoomでの参加者は、IBCを結んでいるハワイ・ヌアヌクラブメンバーと、中部・京都部・阪和部・中西部・六甲部・瀬戸山陰部・九州部からの約25名で、50名以上もの

ワイズメンが参加し、太平洋を越えた楽しいクリスマス祝会になりました。

IBC 交流によるクラブの情報交換は、大阪センテニアルメンバーである谷川寛メンによる同時通訳付き。Hulaによる「きよこの夜」、参加者全員でジングルベル、We wish you a Merry Christmas、HAWAII ALOHA (愛するハワイ・ハワイの国歌)を歌い、ハワイ愛を高めることが出来ました。

2022年ハワイ・ホノルルでのワイズメンズクラブ国際協会創立100周年記念国際大会。こ



フラダンス

の大会の会場で、Hula を披露するために西日本区各地のワイズウイメン有志が昨年春から練習を開始しています。

吉田由美 中西部部長

六甲部

今年度の部としての事業は、実質、コロナ蔓延のため、大部分の行事を中止いたしました。また、大きな判断としては、部費の免除を早々に決定。疲弊した YMCA 支援のために総額 400 万円超の支援を各クラブとともに行いました。また、各クラブも継続して YMCA 支援を行っています。

さらに 10 月 28 日(水)には部主催のチャリティゴルフコンペを千刈カントリークラブで開催し、チャリティを YMCA に行いました。後半、平時の行事を開催したく模索をしています。

六甲部部长 安行英文

西中国部

2020 年 8 月 23 日に開催されました「被爆 75 周年子ども達による平和創作劇 I PRAY 2020」について報告させていただきます。「I PRAY 2020」の公演は、広島の子供たちによる戦争のない世界を希求する、また恒久平和を祈る演劇です。今年は、被爆 75 周年の節目にあたりましたが、新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中、会場の客席の間隔をあけたり感染対策に注意を払ったりして開催されました。メンバーがなかなか集まらず、また密を避けながらの練習は大変であったと聞いています。公演の途中、共催をいただいた松井広島市長も飛び入り参加をされ、また、今回は、YouTube にて世界に配信も行われました。今年度もワイズメンズクラブ国際協会西日本区から支援金をいただきました。西中国部から広島クラブ、岩国みなみクラブ、福山クラブのメンバーが様々な支援を行いました。また、西中国部も微力ですが協賛させていただきました。西中国部は、今後も支援を続けていきたいと思っています。



西中国部部长 渡邊悦司

九州部

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、各クラブの会長のもと 7 月キックオフ例会が開催されました。ただ例年と違うことは、オンラインでの例会。当たり前に対面で会うワイズの在り方を覆す状況からのスタート。各クラブ新たなスタイルでの船出となりました。九州部としては、部長公式訪問は延期、部会は中止しました。会員の皆さまには、この状況がいつまで続くかわからない戸惑い、経済的、精神的、肉体的な不安な気持ちはあるでしょうが、改めて自分達のクラブの現状、将来のことを見つめ直すいいチャンスであり、諦めず、前進していこうとメッセージを送りました。

このような状況でも、災害のボランティア活動、通年行われている各種事業が会長、リーダーを中心に活動されました。新たな試みもありました。リモートを使っの IBC です。締結に向けて交流中です。お互いのクラブにいい影響をもたらしてくれることを期待します。11 月にメネットアワーを開催しました。テーマは「コロナ禍の現状が子どもに与える影響」。大人の世界のことだけでなく、子どもたちも大きな影響を受けている実例を交えながら改めて家族の在り方、社会の在り方など適切なアドバイスをいただきました。

また、部会、評議会とは別に、「みんなで語ろう九州部！」と題して Zoom 会議を開催することにしました。各クラブが新しい取り組みを実践されていることに対し感謝の気持ちでいっぱいです。

九州部部长 松永英明

新生ワイズ起こし運動の活動について ワイズ将来構想特別委員会委員長 森田恵三

1997年7月、西日本区は、会員数1,952人をもって発足しましたが、拡大への期待もむなしく、19年後の2016年7月の期首現在では1,4941人と458人の減少(−23.5%)となり、同時に高齢化が進行しました。

この大きな会員減少と高齢化傾向をワイズの将来的危機と捉え、「これでいいのかワイズメン」との強い意識の下に、2016年7月にワイズ将来構想特別委員会が設置され、2022年のワイズメンズクラブ国際協会創立100周年・西日本区発足25周年には西日本区

発足当時への回復を目標(具体的目標として2,022名)とする「新生ワイズ起こし運動」を展開してきました。

委員会が設置されて以後、全クラブへのアンケートや現状調査による情報収集をもって西日本区改革の課題を探り、「西日本区の発展を希求するビジョンと基本計画」を策定し、理事通信や区報に掲載、運動イメージ図のDVDを製作して、部と全クラブに配付するなど広報に努めてきました。

西日本区ビジョン(ワイズの未来に向かっての理想像)

《誇りと情熱をもって社会に貢献する前向きで逞しいワイズ》

愛と奉仕のワイズ精神を基盤とし、会員相互に切磋琢磨して高め合い、楽しく付加価値の高いクラブ活動を展開し、誇りと情熱をもって社会への貢献に努め、内外から認知され評価される良質な奉仕クラブを目指したい。

《基本計画》

1. 部・クラブビジョン・目標・実行計画
2. 組織風土の改革
3. 質量相俟った会員増強の推進
4. 広報・情報発信機能の強化
5. YMCAとの協働関係の改善
6. 地域奉仕のあり方の改善

西日本区ビジョン実現に向かっての「新生ワイズ起こし運動」は、あくまでも各部に設置された実働チームとワイズ将来構想特別委員会との協働の下に、各クラブと会員一人ひとりが本気になって、勇気を出して、熱気をあげて、根気よく切れ目のない活動をする必要があることを啓蒙しています。

しかし、これまでの4年間の活動状況においては、各

部の環境の違いもあり、活動の効果は弱く、委員会発足後も会員の退会数が入会数を上回るために、いまだ会員減少に歯止めがかからず、会員の危機認識の薄弱さを感じる誠に残念な状況にあります。

今後の委員会活動の方針としては、ウイズコロナの社会変化に在って外向的活動の制約受けることに鑑みて、会員の退会防止と入会者増強には不可欠なワイ

ズメンズクラブの質的向上策を図る内向的活動にシフトすること、併せて、東西日本区合同で設置されているワイズ YMCA パートナースHIP検討委員会と同様に、危機的状況に在ると言われているローカル YMCA とワイズ協働の絆を強化するために、部と YMCA とのパートナーシップ委員会(仮称)を設け、「ウインウイン」の共同体構築を図ることを決断しています。

いずれにしても、弱体環境にあるワイズと YMCA の体制回復発展の願いを全会員が強く心にとどめ、一致協力して行くことが、私たちワイズメンに課せられた使命であると思うものであります。



2020-2021 年度 西日本区役員会メンバー

関西ワイズビジネス交流会の設立総会を終えて —ワイズ×ビジネス 新たな「えん」の始まり—

大阪茨木クラブ KYB 実行委員長 掛谷太郎

去る令和2年12月5日、大阪 YMCA にて関西ワイズビジネス交流会(以下、KYB という)の設立総会と大商演会(自社プレゼン大会)を開催いたしました。この会は、昨年度私が中西部部長の時に構想を練り、新生ワイズ起こし運動特別資金を活用させていただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。また、西日本区役員をはじめ多くの方々にご参加いただいたことを感謝申し上げます。

さて、この会をご理解いただくために以下順を追って説明をさせていただきます。

○設立に向けた背景

私が所属する大阪茨木クラブでは、ここ数年 EMC において決定的な結果が出ておらず、このままでは組織が硬直化してしまい一部の人だけへの負担が永遠に続いてしまう懸念があります。何度となく知り合い(現役で仕事を行っている方)をゲストスピーカーとして例会にお招きしましたが、入会に結びつく決定打を放つことができませんでした。そこで、日々多忙に経営を勤しんでいる方には、仕事や自分に役立つ何かしらの可能性を感じてもらふことも必要だと感じました。また、同じ境遇の多くの人と交流できる場があれば既存のワイズメンを含め EMC につながるものだと考え、KYB の設立を目指すこととなりました。

○大商演会(自社プレゼン大会)について

大商演会では、5つの部から1名ずつの方にプレゼンをしていただき、各自の仕事内容の発表や会社のPRをしていただきました。普段よく会う方の仕事の業種は知っているけど、具体的な仕事内容やどういったことを重視して事業を営んでいるかなど、ワイズとはまた違った面を知ることができ興味深く聞くことができました。このような大商演会や今後実施する事業で会員同士の交流が育まれ仕事に結びつくことも、KYBのひとつの目的として捉えています。

○今後の予定について

現在、新型コロナウイルスの影響で、今後の事業の実施が危ぶまれますが、研修会(大商演会を含む)、ゴルフ、ボウリング等、クラブ・部を越えた交流を通じて、ご自身の仕事にも役立ち、さらにKYBが活性化していけばEMCにも繋がるものだと思います。まだ、最初の第一歩を踏み出したばかりで不安な点が多々ありますが、皆さまのご協力、ご支援、ご参加をいただき、ワイズとはまた違った切り口でKYBを盛り上げていきたいと思っておりますので、ご賛同いただけましたら幸いです。

○ホームページを立ち上げました

立ち上げたばかりで、まだまだ発展途上ですが、今後内容の充実を図っていく予定です。ご興味のある方は、会員のご登録をお願いいたします。

<https://kansai-ys-business.jp/>



<参考> KYB 設立総会・大商演会の動画
(YouTube) <https://youtu.be/5JSkiwTL8cQ>



編集長からのメッセージ

皆さん、ご家族と良い年末年始をお過ごしになられたことと存じます。

前号は、東日本区の特集でした。今号は、西日本区です。その歴史と現在のプロジェクトを紹介します。次号の地域ブリテン(2021年3月)は、フィリピン区の特集ですので、区のリーダーやクラブには、活動に焦点をあてた記事や写真のご提供をお願いいたします。

2021年3月は、地域奉仕活動(CS)とワイズメネット活動の強調月間です。これらのリーダーの皆さまには、記事(300語以内)と写真の投稿を2月20日までにお願いいたします。

アジア太平洋地域のFacebookページをチェックしてください。私たちの活動の話や写真を共有することができるもう一つの方法です。

このブリテンは、画面でお読みください。印刷する必要はありません。



ブリテン編集長 コリン・ランビー

ユース海外短期交流プログラム (STEP)

アジア太平洋地域 STEP 事業主任 パトリシア・リム

STEP は、ユースが他国または自国内の他区のワイズメンの家族と一緒に過ごす 3～11 週間のプログラムです。対象は 18 歳から 25 歳までのワイズメン、ワイズメネットの子供、孫および YMCA ユースです。

STEP は、若者が受け入れ国の文化、習慣、言語、ホストファミリーの現地の生活様式などを体験するための素晴らしいプログラムです。

クラブは、このプログラムを推進するよう奨励されており、資格のあるユースは、ホームクラブを通じて、相応しいホストファミリーを探し、旅行のアレンジを行ってくれる国際協会に申請しなければなりません。申請するのに費用は、かかりませんが、往復の航空運賃と小遣いは、申請者の両親が負担しなければなりません。

このプログラムは、旅行を伴うものですが、世界的な新型コロナウイルスのパンデミックのために将来の旅行が無期限に停止されているため、私の任期中に STEP プログラムが行われる能性は、ないと考えています。現在、過去の申請者数名が保留となっています。

TOF(タイム・オブ・ファスト) — 2 月の強調月間テーマ

アジア太平洋地域 TOF 事業主任 ジェームズ・cong

タイム・オブ・ファストは、ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)が毎年行っている募金活動です。寄付金は、地域や世界に影響を与える、持続可能な YMCA と YMI の取り組みに資金を提供するために用いられます。2016 年からプロジェクトは、国連の取り組みに沿ったもので、持続可能な開発目標のうち少なくとも 1 つに関わりがある必要があります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標



歴史的に、会員は、通常 2 月中に少なくとも 1 食分の食事を抜き、その分の費用をプログラムに寄付します。現金での寄付は、いつでも歓迎されています。ただし、ほとんどの場合、5 月中に他のプログラムへの寄付金と一緒に送金することになります。

TOF 献金呼び掛けカードの例(カナダ・オタワクラブ)

Time of Fast – “Give up some meals” program.

The Ottawa International Y Service Club invites you to
GIVE UP SOME MEALS IN FEBRUARY
CONTRIBUTE THE MONEY YOU SAVE for
YMCA COMMUNITY DEVELOPMENT PROJECTS AROUND THE WORLD.
Please read on for more information if you would like to help.

Here is how the campaign works!
During each week of February, we ask you to give up one breakfast, one lunch, one dinner and all between meal snacks.
Set aside the money you save from not eating and contribute that amount to the campaign.
Use the chart on the reverse to record your savings and calculate your contribution.
Give your cheque or cash to the Ottawa Y Service club.

Payment options: Mail or deliver to the Ottawa Y Service Club
c/o Taggart Family Y, 180 Argyle Ave, Ottawa K2P 1B7
Or contribute through PayPal to our Fair World Sports account
Or give your contribution to one of our members.

Calculating your contribution

7 day period	Meal to skip.	Suggested value	Your contribution
Feb 1-7	LUNCH	\$8.00	
Feb 8-14	BREAKFAST	\$5.00	
Feb 15-22	ALL SNACKS	\$7.00	
Feb 23-28	DINNER	\$10.00	
		Contribution total	

The Time of Fast program is a project for all clubs in the Y Service International movement. Members and friends are encouraged to skip some meals and donate the money saved to YMCA community development projects around the world. Since its inception in 1974, well over \$5 million USD has been raised.

On behalf of the members of the Ottawa Y Service Club, thank you for your support of our campaign.
Set this card on your dining room table as a reminder.

(P13 参照)

アジア太平洋地域： TOF の目標と課題

2020 年-2021 年度は、新型コロナウイルスの影響で厳しい年度になりそうです。TOF 献金の低下が予想されます。

しかし、一部の国では医療支援プログラムの提供に力を入れる必要があるかもしれません。

2020-2021 年度の、皆さまのご協力をお願いいたします。

区	2019-2020 TOF 献金実績 (スイスフラン)	2020-2021 TOF 献金目標 (スイスフラン)
オーストラリア区	1,282	2,000
東日本区	7,889	9,000
西日本区	13,965	19,500
フィリピン区	0	300
南東アジア区	215	1,000
スリランカ区	226	450
台湾区	2,951	3,000
アジア太平洋地域合計	26,528	35,250

TOF: プロジェクト申請ガイドラインおよび選考方法

プロジェクトの適格性

- プロジェクトの申請は、国際本部がグッドスタンディングな状態にあると判断したクラブ、YMCA、または世界的に認められた YMCA の関連団体から受け付けています。
- また、TOF 資金による YMCA のプロジェクトを支援しているクラブも、グッドスタンディングな状態である必要があります。
- プロジェクトの申請は、クラブ、YMCA、または YMCA の関連団体につき、毎年 1 つの申請書のみが審査の対象となります。
- YMCA からの申請書は、プロジェクトが行われたている場所のクラブ、部、区、または地域の推薦を受ける必要があります。
- TOF プロジェクトは、以下の基準を満たさなければなりません。
 - 困窮している人々や彼らを支援する人々に直接関わるものであること



- 自助努力が行われていること
- プロジェクトを成功させるために必要なその他の資金をすべて確保していること
- 国連の持続可能な社会の実現に向けた取り組み(SDGs)の一つ以上に関連していること
- 資金を土地や建物の購入に使用することはできません。
- 1回の申請につき助成金の上限額は15,000スイスフランです。
- 継続中のプロジェクトは、再度申請することで追加の資金を要求することができます。

ガイドライン

- すべてのプロジェクトにおいて、地元の YMCA と YMI の協力が奨励されます。
- プロジェクトのパートナーと協力者の間では、相互理解を示し、関連する活動の範囲について合意した上で、覚書(MOU)などの取り決めを行うことが奨励されます。
- プロジェクト予算の20%以上を管理運営費や給与に充てるべきではありません。
- YMI の資金調達と参加は、2年以内に達成することが推奨されています。
- それ以上の期間のプロジェクトは、新たに申請書を提出する必要があります。
- 複数のプロジェクトの申請を提出することをお勧めしません。

プロジェクトの選定

- すべてのプロジェクト申請は、オンライン申請書を使用して英語で提出してください。
- 申請書は、申請者から直接受理され、自動的に TOF 委員会メンバーと国際本部に送信されます。
- 国際本部は、管轄区域からの申請について、地域・区トロイカに連絡します。
- 資金提供が承認されなかったプロジェクト申請は、提出物の修正が行われた場合を除き、再度検討されることはありません。

カレンダー

9月15日:オンライン申請の開始

3月15日:申請締切

3月20日:地域・区への申請状況連絡

3月31日:地域・区のリーダーからのフィードバックの締切

4月15日:TOF 委員会による申請の初期審査完了

5月15日:TOF 委員会メンバーの TOF 委員長への TOF の評価書送付期限

6月15日:国際議会のワークブックに掲載するための TOF 委員会委員長からの提言の受理

8月30日:この日までに、申請者への国際議会決定の連絡

最近のアジア太平洋地域内の TOF プロジェクト

TOFプロジェクトID	実施国	プロジェクト名、概要	支援額(CHF)
18-02	タイ	「笑顔と愛とケアのための障がい者青少年リーダーシップ強化」約60名の障がいを持つチェンマイ大学生のトレーニングを支援	15,610
19-02	カンボジア	「ユースのためのユースのエンパワーメント」貧困のティーンエイジャーに技術、健康教育、リーダーシップトレーニング等を提供	15,027
19-09	カンボジア	「韓国ワイズによる医療サービス」22名の医師たちが、貧困者に医療を提供。その旅費の一部を支援	30,000
20-06	ラオス	「韓国ワイズによる学校、家のリノベーション」寄宿舎、食堂等建設の資材を提供	30,000

TOF 献金呼び掛けチラシのサンプル

XXXX 区では、皆さんが、2 月中のある食事を抜いて、節約したお金を世界中の YMCA のコミュニティー開発プロジェクトに寄付することを呼びかけています。

キャンペーンの仕組みをご紹介します！

2 月の各週の間に、朝食を 1 日、昼食を 1 日、夕食を 1 日、ある日の間食をすべて断つことを 1 日お願いします。
食事をしないことで節約した金額の分を寄付するキャンペーンです。

下の表を使用して記録し、寄付金を計算してください。
クラブの会計に寄付金を送ってください。

	抜く食事	金額	あなたの寄付金額
2月1日～7日	昼食	8米ドル	
2月8日～14日	朝食	5米ドル	
2月15日～21日	間食	7米ドル	
2月22日～28日	夕食	10米ドル	
		寄付金額合計	

タイム・オブ・ファストプログラムは、ワイズメンズクラブ国際協会の全クラブを対象としたプロジェクトです。

会員やその友人は、食事を抜いて、世界中の YMCA のコミュニティー開発プロジェクトに寄付することができます。

1974 年の開始来、500 万米ドル以上の資金を集めることができます。
このページを食卓のテーブルに貼って、忘れないようにしてください。

区を代表して、皆さまのご協力に感謝いたします。

(各区、各国の実情に合わせて、適宜、修正してください。)

グリーン活動と環境

アジア太平洋地域ブリテン編集長/グリーン活動・環境地域事業主任 コリン・ランビー

アジア太平洋地域グリーンチーム

いくつかの区からの地域グリーンチームのメンバーの推薦をまだ待っています。グリーンチームの対象は、チームで決定されますが、以下のような内容を想定しています。

- アジア太平洋地域におけるグリーン活動の推進
- アジア・太平洋地域 YMCA 同盟のグリーンチームが 2030 年までにすべての YMCA を「カーボンニュートラル」にすることを目指していることを踏まえ、YMCA との関係を強化する。
- 気候変動対策のリーダーとしてアジア太平洋地域を強化するプロジェクトを開発する。
- アジア太平洋地域が、地域大会への旅行と参加による「カーボンフットプリント」(炭素の足跡)を相殺するために、地域大会の参加者に少額の「グリーンレビー(徴収金)」を課することを踏まえ、地域グリーンチームは、「グリーンレビー」からの資金で何をすべきかを提言することになるでしょう。
- 主として会合に参加するための飛行機利用によって発生する、国際的な YMI リーダーの二酸化炭素排出量を相殺するために毎年利用できる YMI カーボンオフセット基金の利用を奨励する。

カーボンフットプリント相殺プロジェクトからの収入の流れ

2020 年 11 月の地域ブリテンに掲載された記事に従って、アジア太平洋地域では、YMCA の建物や他のパートナー組織の建物の太陽光発電の屋上プロジェクトに資金を提供することで、継続的な収入源を創出することができます。理想的なのは、クラウドファンディング(資金調達)を実施して、太陽光発電の屋上プロジェクトの資金を調達することです。アジア太平洋地域は、太陽光発電の利益の一部を「ホスト」である建物の所有者や入居者と共有します。数字を用いた例は、以下のとおりです。単位は米ドルを使用しています。

- 30kW のソーラー屋上プロジェクトには 3 万米ドルの費用がかかります。したがって、これが、エアジア太平洋地域が必要とする金額です。

- ソーラーシステムが生み出す節約は、年間 5,000 米ドル程度になります。節約額や収益がアジア太平洋地域と「ホスト」の間で例えば 80%/20%の比率で分配されるとすると、アジア太平洋地域は毎年 4,000 米ドル(今日の価格で)、今後 10 年間から 20 年間の収入を得ることができます。

30kW は考慮すべき最小のシステムですが、100kW までのシステム(コストは約 10 万米ドル)を検討することができます。これにより、年間約 15,000 ドルの節約になります。

右の写真は、卓球場、バドミントン場の屋上に 30kW の太陽光発電システムを設置したものです。クラウドファンディングで全額出資されました。収入は、60%/40%をホスト/ベンディゴ・サステナビリティグループで分けています。契約期間は、10 年です。



2022 年のハワイ国際大会でのボランティアを募集しています。

ご興味のある方は、デビッド・ルア地域会長/利根川恵子地域書記まで

アジア太平洋地域ウェブサイト: <http://www.ysmenap.org/>

Facebook: <https://www.facebook.com/aspytsmen>

ブリテン編集チーム

編集長: コリン・ランビー

デザイナー:

ディーパック・パンダリ

マリア・マグダ・ガーナ

配布: 利根川恵子

アドバイザー:

デビッド・ルア

ラモナ・インダイ・モラレス

日本語版翻訳/編集: 田中博之